

数学の学年順位190番から、1年後には満点を取り、学年トップになった現松高2年のKさん

現在、松阪高校の2年に在学するKさんが1年程前に青木塾に入塾した頃、数学は大の苦手科目で、実力テストや期末テストでは平均点さえ取れないような状態でした。それから1年後の先日の2学期の中間テストでは、ベクトルの単元で満点を取り、学年トップになったのです。複素数平面の単元の成績は、やや悪かったですが、それでも学年順位51位で、トータルで学年12番という立派な成績を上げました。今では理系のクラスで難しい数に取り組んでいます。彼女の例でも分かるように、たとえ今は数学が苦手でも、青木塾できちっとした指導を受け、努力を続ければ、きっと数学を得意科目に出来ます。

第1回 1年生 実力テスト		2001年6月15日実施	
クラス	席	名前	
2		和	
英語 (平均42.9点)	数学 (平均31.3点)	国語 (平均40.5点)	3教科
	27		
偏差値	偏差値	偏差値	偏差値平均
	47.5		
順位 (/358人)	順位 (/358人)	順位 (/358人)	順位 (/358人)
	190		

上の資料は、高1の1学期に行われた第1回実力テストの結果です。その時の数学の成績は100点満点中27点で平均にも届かず、学年順位は190番でした。

1学期期末テストの成績

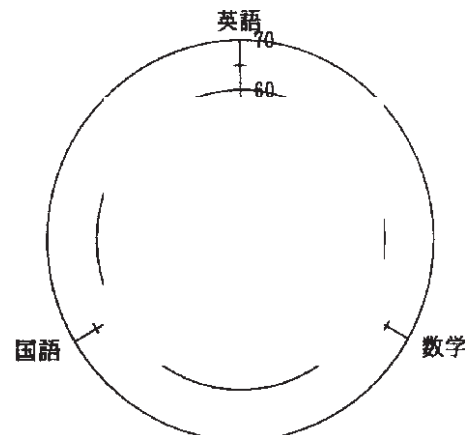
2組
席

科目	英語R	英語G	数学①	数学②	現代文	古典	合計
偏差値			45.7	51.1			
得点			37	48			
順位			241	158			
平均			44.4	45.6			

3教科のバランス

4席

教科	英語	数学	国語	合計
偏差値		48.6		
得点		85		
順位		190		
平均		89.8		



上の資料も、高1のほぼ同時期に行われた期末テストの成績で、数学1などは、何と学年順位241番でした。

1. 次のベクトルの内積と、それらのなす角を求めよ。

(1) $\vec{a} = (1, 0, 1), \vec{b} = (1, 2, 2)$

$\vec{a} \cdot \vec{b} = 3, \theta = 45^\circ$

(2) $\vec{a} = (2, -3, 1), \vec{b} = (-3, 1, 2)$

$\vec{a} \cdot \vec{b} = -7, \theta = 120^\circ$

2. ベクトル $\vec{a} = (x, y, 1)$ が 2つのベクトル $\vec{b} = (2, 3, 1), \vec{c} = (1, 1, -2)$ の両方に垂直

なるとき、 x, y の値を求めよ。
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0 \Rightarrow 2x + 3y + 1 = 0$
 $\vec{a} \cdot \vec{c} = 0 \Rightarrow x + y - 2 = 0$
 $\begin{cases} 2x + 3y = -1 \\ x + y = 2 \end{cases} \Rightarrow \begin{matrix} x = 7 \\ y = -5 \end{matrix}$

3. 3点 A(1, 2, -1), B(3, 4, -1), C(3, 2, 1) を

頂点とする三角形は、どのような形の三角形か。
 $\vec{AB} = (2, 2, 0), \vec{AC} = (2, 0, 2)$
 $|\vec{AB}| = \sqrt{8}, |\vec{AC}| = \sqrt{8}, |\vec{BC}| = \sqrt{8}$
 ΔABC は正三角形となる。

4. $|\vec{OA}| = \sqrt{2}, |\vec{OB}| = \sqrt{5}, \vec{OA} \cdot \vec{OB} = 3$ のとき、

2点 A, B 間の距離を求めよ。
 $|\vec{AB}|^2 = |\vec{OB} - \vec{OA}|^2 = |\vec{OB}|^2 - 2\vec{OA} \cdot \vec{OB} + |\vec{OA}|^2$
 $= 5 - 2 \times 3 + 2 = 2$
 $|\vec{AB}| = \sqrt{2}$

5. 四面体 ABCD において、次のことが成り立つことを示せ。

$AB^2 + CD^2 = AC^2 + BD^2 \Rightarrow AD \perp BC$
 $\vec{AB} = \vec{b}, \vec{AC} = \vec{c}, \vec{AD} = \vec{d}$
 $|\vec{b}|^2 + |\vec{d} - \vec{c}|^2 = |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2$
 $|\vec{b}|^2 + |\vec{d}|^2 - 2\vec{c} \cdot \vec{d} + |\vec{c}|^2 = |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2$
 $|\vec{b}|^2 - 2\vec{c} \cdot \vec{d} = 0 \Rightarrow \vec{c} \cdot \vec{d} = \frac{|\vec{b}|^2}{2}$
 $\vec{AD} \cdot \vec{BC} = \vec{d} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = \vec{d} \cdot \vec{c} - \vec{d} \cdot \vec{b} = \frac{|\vec{b}|^2}{2} - \vec{d} \cdot \vec{b}$
 $\vec{d} \cdot \vec{b} = \frac{|\vec{b}|^2}{2} \Rightarrow \vec{AD} \cdot \vec{BC} = 0 \Rightarrow AD \perp BC$

6. 3点 A(1, 3, 1), B(0, 1, 2), C(3, 5, 1) を

頂点とする三角形の面積を求めよ。
 $\vec{AB} = (-1, -2, 1), \vec{AC} = (2, 2, 0)$
 $\vec{AB} \times \vec{AC} = \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ -1 & -2 & 1 \\ 2 & 2 & 0 \end{vmatrix} = (0, -2, -2)$
 $|\vec{AB} \times \vec{AC}| = \sqrt{8} = 2\sqrt{2}$
 ΔABC の面積 = $\frac{1}{2} \times 2\sqrt{2} = \sqrt{2}$

7. 平行六面体 OADB-C1JK において、直線 OJ と

平面 ABC の交点を P とする。 $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とするとき、 \vec{OP} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ で表し、点 P が三角形 ABC の重心であることを示せ。
 $\vec{OP} = \lambda \vec{a} + \mu \vec{b} + \nu \vec{c}$
 $\vec{OP} \perp \vec{AB} \Rightarrow (\lambda \vec{a} + \mu \vec{b} + \nu \vec{c}) \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = 0$
 $\vec{OP} \perp \vec{AC} \Rightarrow (\lambda \vec{a} + \mu \vec{b} + \nu \vec{c}) \cdot (\vec{c} - \vec{a}) = 0$
 $\begin{cases} \lambda - \mu + \nu \vec{c} \cdot \vec{a} = 0 \\ \lambda - \mu + \nu \vec{c} \cdot \vec{a} = 0 \end{cases} \Rightarrow \lambda = \mu = \nu$
 $\vec{OP} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$
 P は重心。

上の資料は、この2学期の中間テストの成績で、なんとベクトルの単元で満点を取りました。1年前には考えられないような、大変な実力向上を示しています。

訂正版 2学期中間テストの成績 H14, 10

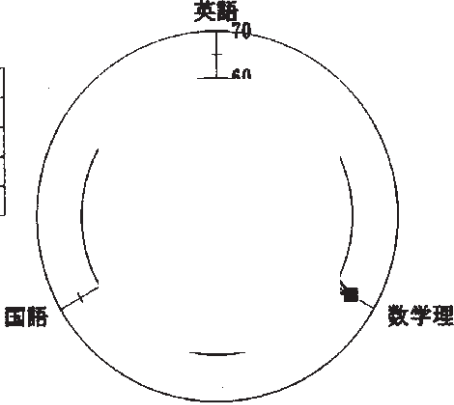
科目	英語W	英語II	数①理	数②理	国語II	古典	合計
偏差値			69.8	56.8			
得点			100	53			
学年順位			1	51			
学年平均			51.8	38.8			

注) 合計の順位はコース別順位です。

3教科のバランス

教科	英語	数理学	国語	合計
偏差値		64.1		
得点		153		
学年順位		12		
学年平均		90.6		

注) 合計の順位はコース別順位です。



上の資料は、同じ2学期のテストの成績表です。数学の一方が満点で学年順位1番、他方が2番で、両方でも学年順位12番の好成績です。